

---

# ff13 ~獣使い~

貧弱戦士

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ff13～獣使い～

### 【Zコード】

Z5077Y

### 【作者名】

貧弱戦士

### 【あらすじ】

世界の常識をそんなに知らない男『レックス』。ライトと幼馴染で、何かが抜けている21歳。そんな彼はライトの妹、セラを助けるためにコクーンへと乗り込んだ！？ 一体、彼はどう助けるのか

⋮

## プロローグ

「……なあ、アンタ?」

「あ? 何だ」

俺様は席に座つて、銃を構えている人に声を掛ける

「あのわあ、俺達はいわゆるアレだろ? 生贊みたいな? 何でそんな事せにやあかんねん」

「生贊ではない。」これは……待て、何でお前がこんな質問するんだ?  
? お前は……

「うだよなあ、今はバージするためにこの列車に乗つてんだから  
こんな質問したら可笑しがられるだろ?」

けど、俺様の頭は可笑しくない!　o.k?

「ん~、俺様さあ。あるか弱い女の子を守るためにこの醜い列車  
に乗つたんだが……俺様は学校とかの勉強を受けていないから、じ  
えんじえんわかんないんだよ~」

「お、お前ま「はい遅い!」ぐ、ぐはつ!」

俺は兵隊さんに一発拳を入れた

バーカ、潜入しているくらいに氣づけよアホ

セヒト……

俺はページするために着たフードを脱ぎ、ゆっくりと前へ歩く  
さいわい此処の見張りは一人だから、目立たなくてすんだな

俺は左腕に付いているコンピューターを操り、画面を出す

『 は、今日一番の幸運者です。では次はお天気』

「 よ～し、今日はラッキーらしいぞ俺様！」

うん、今日もカナちゃんは可愛い！！ 愛しちゃう！

画面を消し、時間を見た

ライトが動くにはまだ時間が掛かるな……あいつは俺様が来るの  
は知らないよな？

仕方ねえ、そんじやまあ此処から出るか

「 うひあ！！ 壊れちゃーーー！」

扉の前に立ち、思い切り蹴った

「 .....痛ツテ~~~~~!!!!!! .....あ、脚がつった！？ 何  
かつった！？ 粪痛ツテ~~~~~！」

もちろん昔ではないから、扉は簡単に開かず俺の脚が重傷となつた

脚を抑えて半泣き状態で、市民から冷たい視線を送らせている

すると……

『プシュー』

扉は開いた

「…………ふははははは……！ 今のはわざとですょ音やん……！ では、俺様はこれで！－！」

扉に向かつて走つて、華麗に着地した

ふ、決まった……

「ぎゅあああああ－－！ 張り切り過ぎて、脚がさらに悪化したああああ－－－！」

「、この糞……

俺様の脚がこんなに脆弱いとは、今度鍛えなくては

そのまま脚を抑えて立ち上がり、全体の光景を見た

「…………此処がコクーンか。そしてあのラピュ みたいのが……セラが居るのか」

聳え立つ塔みたいなのが……

何で知らないかって？だから、俺は学校とかそんなんとか行つてないから、マジでわかんないつてば！！

「」のレッククス様をなめんなよ！？

「よつしゃ―――――― 行くぜ！」

俺は塔みたいな所に向かつて走り出した

力ナちゃん！―― 今日は怪我しまくりです！

## プロローグ（後書き）

感想をください！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n5077y/>

---

ff13 ~獣使い~

2011年11月17日20時25分発行